

# 1 生涯学び、活躍できる環境の整備

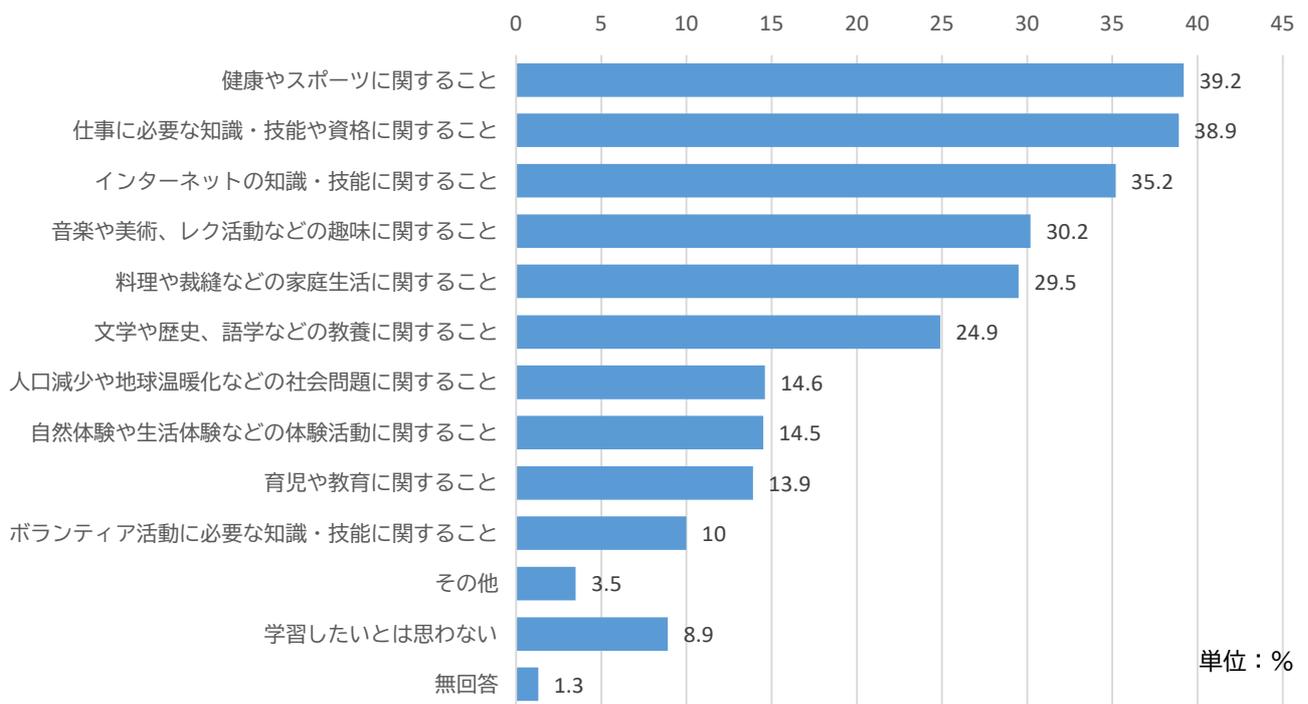
## 10年後の目指す姿

- ☞ 県民がそれぞれの意欲や希望に応じて、生涯にわたり学び続けることができている。
- ☞ 学んだことを生かして、地域活性化や地域課題の解決に貢献している。
- ☞ 県民が現代的・社会的課題の解決に向け、学びの成果を循環することで、地域コミュニティが活性化している。

## 現状と課題

- ◆ 長寿化が進展する人生100年時代においては、これまでの「教育-仕事-引退」という単線的な人生のモデルから、一人一人の学ぶ時期や進路が複線化する、人生のマルチステージモデルへの転換が予測されています。
- ◆ こうした社会の変化の中で、誰もが幸せを実感し、活躍できる豊かな社会を実現するためには、人権教育を始めとした、現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実など、県民が生涯にわたり学び続けることができる環境づくりが必要です。
- ◆ 子どもや社会人、高齢者、障がい者など、年齢や障がいの有無を問わず学び続けることができるよう、多様化・高度化する学習ニーズへの対応に加え、学びの成果を地域活動等に生かすことができる、学びの好循環を実現することが重要です。

国民の関心が高い学習内容



出典：生涯学習に関する世論調査(内閣府)

## 主な取組

### ①多様なニーズに対応した学習機会の提供

- ・ライフステージに応じた学びや地域防災に関する学びなど、県民の学習ニーズや現代的・社会的課題に対応した学習機会の提供
- ・社会教育施設や民間団体等との連携によるセミナー・公開講座など、高齢者や障がい者の学習機会の充実
- ・成長分野における人材育成など、大学や産業界との連携による実践的なりカレント教育※<sup>1</sup>の充実
- ・0-Laboを始めとした、小・中学生向け科学体験活動の充実

### ②多様な学びを支える環境づくりの推進

- ・県民ニーズを踏まえた多様な学びを支える、公民館・図書館等社会教育施設の機能強化
- ・社会教育関係団体やNPO等民間団体への支援の充実
- ・生涯学習情報提供システム「まなびの広場おおいた※<sup>2</sup>」を活用した、学習情報の発信強化
- ・地域活動やボランティア活動への個人の学習成果の還元などを通じた、学びの好循環の確立
- ・社会教育主事や公民館主事など、社会教育に関わる専門職員の養成と資質向上
- ・個人の学習成果を継続的な学びにつなげるサイクルの確立や、キャリアアップにつながる職業能力の向上等に向けた、デジタル技術を活用した学習履歴の可視化の推進
- ・「おおいたデジタル資料室」や「おおいた文化財ずかん」など、県民の学習機会の充実に向けたデジタル技術やネットワーク技術の活用促進



障がい者の学習機会(大分大学講座)

### ③人権意識を高める学びの推進

- ・公民館等社会教育施設による講座や、障がい者、外国人等との交流活動など、多様な学習機会の充実
- ・人権問題に深い認識を持った指導者の養成・活用等を通じた、性的少数者の人権問題など新たな人権問題への対応
- ・関係団体等との連携による男女共同参画に関する講座など、地域の人権問題や県民ニーズに沿った、効果的な学習プログラムの開発の推進
- ・大分県社会人権教育・部落差別解消推進協議会の活動等を通じた、人権が尊重される地域づくりに向けた地域における人権学習の取組強化

## 目標指標

指標名	基準値	目標値	
	R5年度	R10年度	R15年度
県民一人当たりの貸出冊数(冊)	4.11	4.2	4.3
生涯学習情報提供システムのアクセス件数(万件)	9.2	9.85	10.5

※1 学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。仕事を休まず学び直すスタイルもリカレント教育に含まれ、社会人になってから自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶため、「社会人の学び直し」とも呼ばれる。

※2 本県が運用する県民のための生涯学習情報提供システムの呼称。学習情報の収集と提供、利用者の学習相談を行っている。

## 2 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進

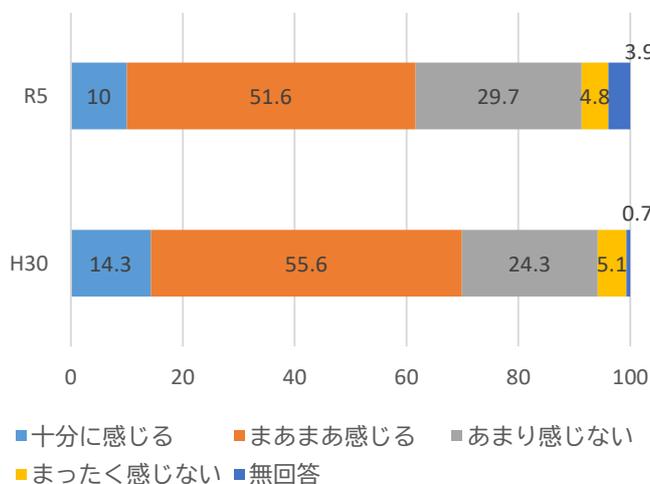
### 10年後の目指す姿

- ☞ 学校・家庭・地域が連携・協働して、子どもの学びと成長を地域全体で支える環境づくりと、多様な地域人材が活躍する地域コミュニティの活性化が一体的に進んでいる。
- ☞ 公民館を拠点に多様な地域人材が参画し、住民総がかりによる地域づくりが行われている。
- ☞ 地域全体に支えられて保護者の学ぶ環境が整い、子どもが十分な家庭教育を受けられている。

### 現状と課題

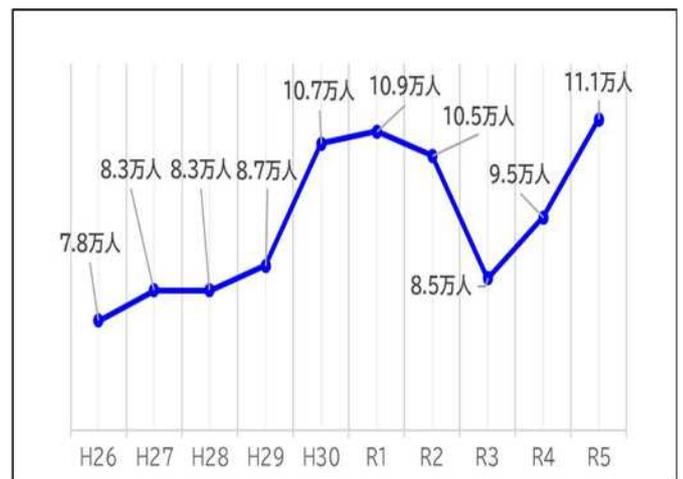
- ◆ 少子高齢化の進行とともに、人間関係の希薄化といった課題が顕在化し、地域コミュニティの要である住民間のつながりが弱まっています。
- ◆ 地域の持続可能な発展のためには、将来の地域を担う子どもたちを、地域全体で守り育みながら、子どもを含む地域住民が一丸となって、地域の課題解決に取り組んでいくことが重要です。
- ◆ こうした中、社会教育には一人一人の生涯にわたる学びを支援し、住民相互のつながりの形成を促進することで、地域コミュニティを活性化し、地域の持続的発展に寄与する役割が一層期待されます。
- ◆ 学校・家庭・地域が役割と責任を分担し、子どもへの体験活動の提供や学習支援などを基本とする「協育」ネットワークを基盤として、地域の活力を支える人材の育成と地域コミュニティの活性化につなげていくことが求められています。
- ◆ 共働き家庭やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境の変化を背景に、子育てが地域や社会で支えられていると感じている保護者の割合はH30年（69.9%）からR5年（61.6%）にかけて減少しています。

〈子育てが地域や社会で支えられていると感じている割合〉



出典：大分県調べ

〈「協育」ネットワークの取組に参加する地域住民数推移〉



出典：学校・家庭・地域による「学びの未来」創造事業実践報告書(大分県)

## 主な取組

### ①「協育」ネットワークの充実・深化

- ・放課後や休日の子どもの体験活動・学習支援、登下校の見守りなど、地域コミュニティの活性化に向けた、子どもの学びの支援への参画・協働の促進
- ・環境教育や防災教育、キャリア教育など、学校・地域の連携・協働による地域独自の学習機会の充実
- ・地域の伝統文化等を活用した、郷土への誇りや愛着を育む学習の充実
- ・「協育」ネットワークを基盤とした、子ども会や青年団、女性団体、PTAなどの各種団体や福祉・医療・産業などの各種領域との連携強化

### ②地域課題の解決に向けた環境整備

- ・地域コミュニティの活性化に向けた学習講座や地域活動の支援等を通じた、公民館等の学びの拠点化の推進
- ・個人の学びの成果を子どもの学習支援等地域活動につなぐ、コーディネーターの養成・確保
- ・地域づくりや人づくりの中核的役割を担う人材としての、社会教育主事及び社会教育士の養成・資質向上
- ・社会教育士の活用促進に向けた、社会教育人材ネットワークの構築・展開
- ・市町村や公民館、社会教育関係団体会員を始めとする、社会教育関係者の資質向上
- ・地域振興や産業経済等の地域課題の解決に向けた学習機会の充実
- ・子どもの文化・スポーツに親しむ機会の確保に向けた環境の整備・充実
- ・コミュニティ・スクールの導入や高校と地元企業等との連携による、課題の解決や地域活性化に向けた取組の推進

### ③地域に根ざした家庭教育支援の推進

- ・家庭教育支援チーム※<sup>1</sup>の設置など、多様な能力・経験を持つ地域人材の家庭教育支援の取組への参画促進
- ・「親の学びプログラム」など、学習教材等の提供を通じた家庭教育への理解促進
- ・家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等への啓発
- ・子育て支援など、福祉等関係部局の施策と連動した切れ目のない支援の充実



放課後・休日の子どもの体験活動  
(陶芸教室)



公民館での地域活動  
(料理教室)



家庭教育支援ファシリテーター養成講座

## 目標指標

指標名	基準値	目標値	
	R5年度	R10年度	R15年度
「協育」ネットワークの取組に参加する地域住民の数(万人)	11.1	11.6	12.1
家庭教育を支援する取組を行う組織の数(団体数)	40	76	117

※1 身近な地域で子育てや家庭教育に関する相談対応や、親子で参加する様々な取組や講座などの学習機会、地域の情報などの提供を行う、子育て経験者をはじめとする地域の多様な人材で構成する自主的な集まり